



# 営農NEWS



## ナシ「幸水」収穫前の黒星病、ナシヒメシンクイなどの適期防除に努めましょう

### 1 黒星病

病害虫速報No.4（県病害虫防除所 7月7日発表）によりますと、6月下旬現在、ナシ黒星病の果実での発病率（本年0.8%、平年0.3%）は平年より高く、その発生地点率（本年53%、平年38%）はやや高い状況で、また、葉での発病率（本年0.7%、平年1.0%）及びその地点率（本年63%、平年63%）はともに平年並で、この結果、今後はやや多い発生量になると予想されています。

ナシ黒星病は、発病した葉や果実、果そう基部などに形成された分生子が、降雨時に飛散して二次伝染を繰り返します。今後とも、降雨が続くと予想される場合には更に注意が必要で、降雨直前又は直後に薬剤防除を実施しましょう。  
 <防除のポイント>

- 1) 発病した葉や果実、果そう基部などは必ず摘除し、圃場外に持ち出すなど処分した後に薬剤散布を行いましょう。
- 2) 降雨が連続する場合は、散布間隔を詰めて10日以上開かないように実施する。
- 3) 27年版「赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」を参考に、SSによる薬剤散布にあたっては、10aあたり300ℓを目安に十分な薬量で、かけむらの無いよう園内を縦横に走行して丁寧に散布してください。なお、圃場の周縁部など、薬液のかけりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行うことが重要です。

表1 ナシ黒星病の主な防除薬剤（平成27年7月10日現在）

薬剤名	成分系統	希釈倍数	使用時期／使用回数	参考防除例
アンビルフロアブル	E B I	1,000～2,000倍	収穫7日前まで／3回以内	7月中旬
ストロビードライフフロアブル	ストロビルリン系	3,000倍	収穫前日まで／3回以内	7月上旬
フルーツセイバー	アニライド系	1,500～3,000倍	収穫前日まで／3回以内	
ナリアWDG	ストロビルリン＋ アニライド系の混合	2,000倍	収穫前日まで／3回以内	

注) E B I 剤は耐性菌の出現を回避するため、年間の使用回数を3回以内に抑えるようにします。

### 2 ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイは年間3～4世代を繰り返し、通常、世代を重ねるほど発生量が多くなって、ナシでは7～9月の密度が最も高くなります。

病害虫発生予報7月号（県病害虫防除所）によりますと、6月下旬現在、ナシヒメシンクイの発生は平年並～やや少ないと予想されていますが、例年、発生が多い園などでは、果実被害の発生防止に十分な注意が必要です。

なお、ナシ果実の被害が大きくなるナシヒメシンクイ（第三世代）幼虫に対する防除適期は7月中～下旬頃とされていますので「赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」または下記を参考に、確実に薬剤防除を実施してください。

また、通常は防除適期が8月中旬～9月上旬頃となる（第四世代）幼虫についても、今後の気象条件等により年次変動しますので、今後の発生予察情報等を参考にして適期防除に努めてください。

薬剤防除は10aあたり300ℓ散布を目安に、上記「黒星病防除のポイント」を参考に丁寧に実施してください。

表2 ナシ シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）の主な防除薬剤（平成27年7月10日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	参考防除例
スカウトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 5回以内	8月上旬
オリオン水和剤 40	1,000倍	収穫 3日前まで / 2回以内	
MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫 14日前まで / 2回以内	7月中旬
ロディー水和剤	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 2回以内	8月中旬
バリアード顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	
ディアナWDG	5,000～10,000倍	収穫前日まで / 2回以内	7月下旬
ダイアジノン水和剤 34	1,000倍	収穫 14日前まで / 6回以内	
サムコルフロアブル 10	2,500～5,000倍	収穫前日まで / 3回以内	
アディオオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで / 2回以内	
フェニックス顆粒水和剤	4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	
ハチハチフロアブル	1,000倍	収穫 14日前まで / 2回以内	

農業使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040